

学校運営協議会委員の皆様を対象としたアンケートの集計結果について

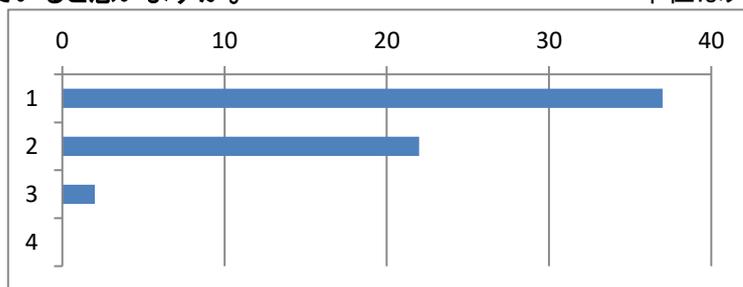
令和5年11月

1. 学校の教育活動についてお答えください。

(1) 学校は子どもを中心とした教育活動を行っていると思いますか。

* 単位は人数

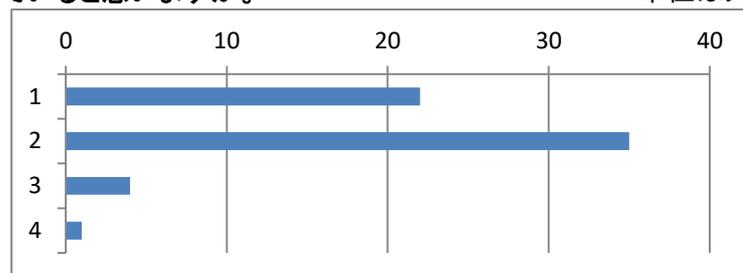
- ① 思う(37)
- ② どちらかといえば思う(22)
- ③ どちらかといえば思わない(2)
- ④ 思わない(0)



(2) 学校は地域住民と連携した教育活動を行っていると思いますか。

* 単位は人数

- ① 思う(22)
- ② どちらかといえば思う(35)
- ③ どちらかといえば思わない(4)
- ④ 思わない(1)

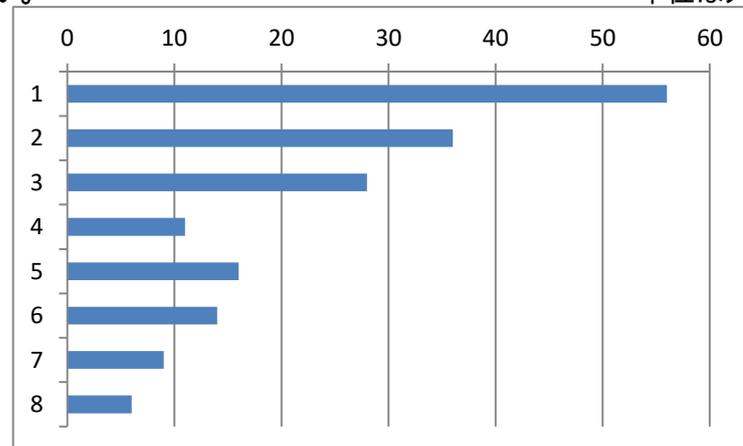


(3) 学校教育について、特に望むことは何ですか。

* 単位は人数

* 3つまで回答

- ① 学力向上の取組(56)
- ② 体力づくりの取組(36)
- ③ 人権教育の充実(28)
- ④ 防災教育の推進(11)
- ⑤ ICT機器を活用した教育の推進(16)
- ⑥ 地域と連携した教育の推進(14)
- ⑦ 保護者への情報提供(9)
- ⑧ その他(6)



◆その他の内容について

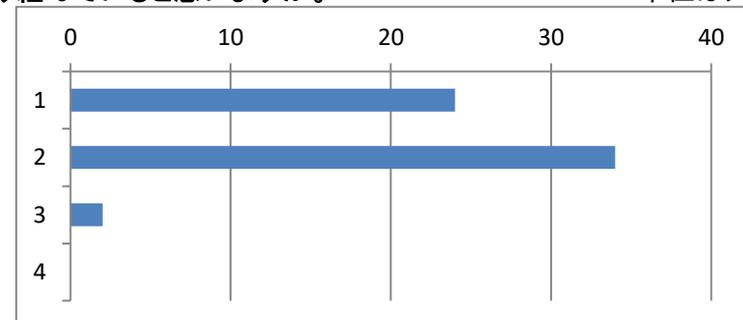
- ・道徳教育(2人)
- ・性教育の充実
- ・人の道教育の取組
- ・基本的習慣の獲得
- ・学びや勉強が楽しいと思い、自己成長を促す取組

2. いじめの問題についてお答えください。

(1) 学校はいじめの問題について、前向きに取り組んでいると思いますか。

* 単位は人数

- ① 思う(24)
- ② どちらかといえば思う(34)
- ③ どちらかといえば思わない(2)
- ④ 思わない(0)



(2)いじめの問題について、学校や教育委員会がどのような取組を行っていけばよいか、ご意見をお聞かせください。

①学校

- ・教員の時間確保。
- ・保護者との情報共有。
- ・早期に把握して対応。
- ・できるだけ早い対応を行う。
- ・疑わしい事象は直ちに対応。
- ・職員間での情報共有と協力。
- ・子ども達ときちんと向き合える取組。
- ・役割分担を決め、組織的に対応する。
- ・保護者へのアンケート、子どもへのアンケート等を！
- ・クラスごとに徹底したディスカッションを行うこと。(2人)
- ・いじめ発生時には迅速に対応し、早期の解決を望みます。
- ・まずは先生方の間の生徒に関しての情報共有を密にする。
- ・子どもの話をきちんと聞いてあげてほしい、見てほしい。
- ・子どもたちの様子をしっかり見て異変に気づくことが大事。
- ・性格が弱者と思われる生徒に対してのコミュニケーションを計る。
- ・保護者との連絡、人権教育の充実、日々の子どもの様子の観察。
- ・道徳教育をしっかりやって、やっていいこと悪いことを分からせてほしい。(2人)
- ・少人数の児童で大変だと思いますが、小さいいじめの芽を摘んでください。
- ・子どもの変化に気づけるような子どもとの関係性づくりを日常で取り組むこと。
- ・例えば学期ごとや毎月でも子どもにいじめアンケートを取るなどしてもいいと思う。
- ・1時間でも時間を設けて、別室に一人一人の児童を個別に呼び、いじめがないかどうかを問う。
- ・生徒が発するSOSを見逃さないようにして、いじめの早期発見！ 担任だけでなく学校全体で！
- ・子どもたちをしっかりと見て、いつもと比較して変化があれば気をつけて対応してほしいと思います。
- ・一人一人の児童の様子を見ていて、いじめにあっていないかどうか小さなうちに見つけてあげてほしい。
- ・取組の成果が子どもの人格形成の土台となり、生きていく力となるよう先生方のお力に期待致しております。
- ・問題を抱える児童の把握。早期発見、早期対応、関係機関との連携。カウンセリングや悩み相談ができる場を提供。
- ・学校・児童・保護者との情報共有を密にする仕組みを構築する。いじめに関する教育(カリキュラム)の充実を図る。
- ・した側もされた側も、何故したのか何故されたのかの気持ちの聞き取り。悪いことだよ、謝ろうだけで終わらないこと。
- ・アンケートの度に書きますが、何か起きたことについては学校全体ひいては地域全体のことと考え全員で相談すること。
- ・スクールカウンセラーの常駐。画一的な教育の進め方を止め、大人が子どもの個性を認める態度を子どもたちに見せること。
- ・見て見ぬふりをしないでほしい。いじめがあった時、先生ふくめて当事者と何がいけなかったかなど話し合いをしてほしい。

・いじめがあれば、いじめた子・いじめられた子に聞き取り、原因が何かを知ることが大事かと思ひます。早く解決することが大事だと思ひます。

・普段から子どもに寄り添い、子どもの変化に早く気づき対応をとってほしい。いじめがあった場合、できるだけ早く全教職員で情報を共有できる体制づくりを。

・いじめの判断基準が難しくなっている現在、「自分から気持ちを出せる」環境が少しでも出来ればいいですが、何かプライバシーに特化した発言の場を設けるのも一つかと思ひます。

・生徒への支援としていじめは絶対にダメという認識を持ってもらうことが大切で、例え傍観者であっても許されるものではなく、教職員や親に伝えることが正しいという倫理観を与えることが必要。

・重大事態のうち約4割については、学校が事前に“いじめ”を認知していなかった。学校現場は多忙な状況が続き、対応が後回しになることが多いとみられている。教諭は「児童に気になる様子があっても、“いじめ”の現場を目にしない限りは、授業準備などの業務を優先してしまう。いかに“いじめ”を放置していると考えざるを得ない。小さな“目”を見逃してほしくない。

②教育委員会

・情報の収取

・学校との連携が大事

・教育現場との緊密な連携を

・教育現場の状況確認を常に行う。

・絶対に隠さない、ごまかさない。

・報告書の簡素化、迅速な情報共有。

・いじめの連鎖が無いようになる取組。

・学校と連携を密にすることがよいと思ひます。

・学校・保護者の話をよく聞く。子どもファースト

・各学校の状況を常に把握し、迅速な対応を望みます。

・各種相談窓口の設置やアンケート等をお願いします。

・学校との連携を密にしてしっかりサポートしてほしい。

・各学校の実態把握とスクールカウンセラーの派遣等の支援。

・電話相談の窓口を設置して、相談しやすい環境づくりを行う。

・発覚したら速やかに公表し、地域でも解決に向け取り組んでほしい。(2人)

・とにかく現場(学校)に足を運んで事実をしっかりと確認してください。

・現場(学校)をよく見る。時間の許す限り現場に足を運んでもらいたい。

・関係機関との連携。事実関係の究明。学校の取組への支援と取組状況の把握。

・どこでもいじめはある。学校に対してもう一歩踏み込んで指導をしてほしいです。

・学校で起きたことについては速やかに協議するようお願いいたします。早ければ早いほど。

・教職員の方の声に耳を傾け、問題があれば、共に考え、取り組んでいただけるとよいと思ひました。

・いじめと家庭環境は関係のあるところですので、子育て支援、親支援の課とも連携し健やかな発達を。

・先生たちがいじめにあってる児童がおればどのように対処すればよいか方法を研修してあげてください。

・各学校でのいろいろな先生からの聞き取りで、できるだけ見えていない部分への対応も可能になるかなと思ひます。

・学校などからいじめについての話があれば、時間をかけずにタイムリーに、また真剣に取り組んでほしいと願ひます。

・何事においても感謝の心が自然と身につけられるよう、一人の子どもとして少しでも楽しく、その楽しさが自信につながるよう。

・各学校・教育委員会との情報共有を密にする仕組みを構築する。他県(市含む)の取組事例(よい例・悪い例)の収集および情報共有を図る。

・人間のこと、社会のこと、自分自身のことなど想像し、しっかりと進む道を選び取っていける人を育む中枢として、今後もよろしくお願い致します。

・いじめがあったことを隠さず公に発表すること。子ども達が居心地のよい学校になるよう設備を整えること。保護者からの要望にきちんと耳を傾け対応すること。

・学校の現場の声を聞いて、話し合いの中で何事も協力し合って進めていただければ、いじめへの対策のすれ違いや新たなアイデアが出るのではないかと思います。

・熊野市内の小中学校では計り知れないが、最近の報道で文部科学省では「いじめ」と「不登校」に揺れる、心身に深刻な被害を及ぼす“いじめ”の重大事態も増加しており、初期段階で対応できずに事態が深刻化。学校当局への指導を徹底してほしい。“後悔先に立たず”。たえず緊張感を。

③ ①学校と ②教育委員会 の両方に

・いじめ人の深層探求

・不利な事案も真実解明のため情報の素早い開示と取組をお願い致します。

・一番大切なのは「自分(ぼくorわたし)です」と「どの子どもたち」も思うように、このことが「誰でも同じ」であることを理屈ではなく『思い込める』ように…そんな日々の生活で醸し出してくるような環境を創り出してほしい…です。『むづかしい!!』ですね。

・先日NHKでストーカー問題などのDVへの対処方法を特集していた。その中で警察などの外部機関への相談が強調されていたように思う。警察というとどうも抵抗があるが、今は最も早道のような気がする。いじめ→自殺という最悪の場合を考えると、外部機関の手も借りることが大事ではないか

・「「いじめ」は大小に関わらず必ずある。」との認識のもと、子ども達・教師・親それぞれが当事者にならないよう言動に注意しながら、子どもたちの様子に心を配り、いつもと何か様子が違うと感じられたら、「小さな芽」のうちに発見し、不登校等に発展しないように家庭・学校・教育委員会が一丸となって対処し、子どもたちがみんなして楽しい学校生活を送られたら幸いです。